資料３

政策・総務・財政委員会
平成２８年１２月１２日
政　　策　　局

旧上瀬谷通信施設における国際園芸博覧会の招致検討について

１　検討経過

本市では、昨年６月に日本に返還された旧上瀬谷通信施設の跡地利用に対して、国の積極的な支援を得るため、国際園芸博覧会の招致検討を進めています。

地権者に対しては、今年６月中旬から実施した個別面談において、横浜市の国際園芸博覧会の招致検討についても説明し、検討を進めることに概ねご理解をいただきました。

９月には、国際園芸博覧会に対する本市の基本的な考え方を地権者の皆様に説明しました。【資料３－１】

さらに10月に「国の制度及び予算に関する提案・要望書」をとりまとめ、旧上瀬谷通信施設における国際園芸博覧会の開催検討について、支援と協力を国に要望しました。【資料３－２】

２　今後の進め方

今後、「国際園芸博覧会についての横浜市の基本的な考え方（素案）」をもとに、地権者の皆様をはじめ市民・企業の皆様、市会、有識者、関係機関等のご意見を伺いながら、本市として国際園芸博覧会の具体的な内容について検討してまいります。

参考

国際園芸博覧会のスケジュールイメージ
※太字は横浜市が主体的に行うこと

年度	想定される主な取組
2016	**花博招致検討（基本的な考え方の作成など）**
2017～2019	**検討組織の設置(予定)、花博構想(案)の作成、国へ花博招致の正式要請、AIPH(国際園芸家協会)に花博開催申請**・承認
2020	閣議了解⇒BIE(博覧会国際事務局)に花博開催申請・承認
2021	閣議決定⇒BIE(博覧会国際事務局)に登録、博覧会協会設立
	会場計画・整備、参加招聘
2026	国際園芸博覧会（花博）の開催

国際博覧会の開催予定

西暦	国際博覧会（認定博） 国際園芸博覧会（Ａ１）	国際博覧会（登録博）
2015		ミラノ万博
2016	トルコ:アンタルヤ	
2017		
2018		
2019	中国:北京	
2020		ドバイ万博
2021		
2022	オランダ:アルメール	
2023		
2024		
2025		大阪他で検討中
2026	**横浜開催の想定**	

旧上瀬谷通信施設における国際園芸博覧会について

政策・総務・財政委員会　資料３-１
平成28年９月説明会資料

検討状況

- 横浜市では、旧上瀬谷通信施設の跡地利用促進策として、国際園芸博覧会（花博）の招致検討を行っています。
  この検討において、現時点での**国際園芸博覧会についての横浜市の基本的な考え方（たたき台）を作成しました。**
- この考え方をもとに、**地権者の皆様をはじめ市民・企業の皆様、関係機関、有識者等の御意見を伺いながら、国際園芸博覧会の内容について検討していきます。**

基本的な考え方（たたき台）

◎開催意義（案）

＜地域における開催意義＞
戦後 70 年の返還地であり首都圏最大級の広大な空間での開催

【国際園芸博覧会が地域にもたらす効果】
- 道路・下水・交通・公園等の、まちの基盤整備を関連事業として促進
- 地域の知名度の向上およびブランド化
- 地域の農業の振興

横浜市郊外部の活性化拠点としての
旧上瀬谷通信施設のまちづくりの起爆剤

＜横浜における開催意義＞
かつて海外との花文化の交流窓口となり、現在、首都圏をリードする環境施策を展開する横浜での開催

【横浜の歴史】
- 開港後、欧州に対する花や緑に関する日本の窓口
- 山手居留地外国人等によりバラ等の洋種園芸が全国に広まる

【横浜の“いま”】
- 先進的な環境と緑の施策（環境未来都市、横浜みどりアップ計画）
- 日本を代表する文化芸術、観光 MICE 都市
- 都市農業の推進、盛んな花き（苗物）の生産
- 373 万人の花と緑のある暮らし

都市緑化よこはまフェアをステップとした
Garden City Yokohama に向けた都市づくり

＜国内における開催意義＞
未来への展望を示し、社会の課題を転換する契機としての、国際園芸博覧会の開催

【大阪花博（1990 年）がもたらしたもの】
- 「環境政策」へシフトする契機
- 環境を重視する都市づくり、ガーデニング普及の先導的役割

【国内の“いま”】
- エネルギー・環境イノベーションによる社会の変革
- クールジャパンの推進（日本の魅力の海外発信）
- 「観光先進国」の推進（2030 年に訪日外国人 6 千万人）
- 都市農業・花き文化の振興
- 一億総活躍社会の実現

未来の社会モデルとなる
心の豊かさや生活の「質」の向上を目指した社会の実現

◎開催の理念（案）

未来にむけて、花や緑を通して、
地球規模の環境問題である温暖化や生物多様性、食料不足などの解決を促し、
暮らしや健康・文化などの生活の「質」の向上の新たな提案を行う
時代の転換点となる国際園芸博覧会の開催

＜展開イメージ・キーワード＞
- ○持続可能な環境　（グリーンインフラ、緑のまちづくり）
- ○水・食料　（サスティナブルアグリカルチャー、スローフード）
- ○健康長寿　（バイオセラピー、グリーンウェルネス）
- ○文化・芸術　（ライフスタイル、庭園、フラワーアート）
- ○先端技術　（バイオニクス、IoT）
- ○観光・交流　（アーバン・アグリツーリズム）

海外と日本の文化交流の窓口となった横浜から発信

◎開催に向けて…

○国際園芸博覧会を、一過性のイベントとして開催しては、成功と言えません。
➡市民・企業・行政など様々な主体が参加・協働し、花や緑を切り口に、これからの社会に必要な「コト」を生み出すしかけづくりをしていく
➡成長「エンジン」に確かな「舵」をつけて未来へ進める

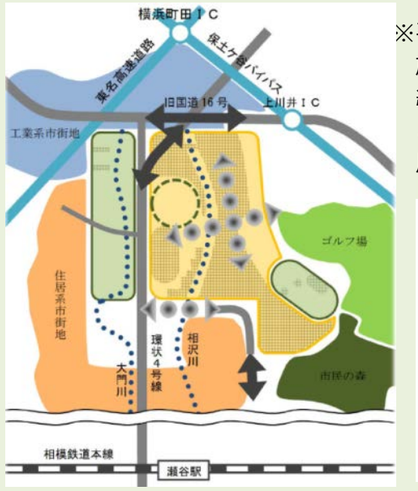
花と緑を切り口に「コト」を生み出すしかけづくり

例☆環境負荷の少ない街づくり、社会システムの構築
☆楽しく暮らせる働き方、生きがいの創出等のライフスタイル改革

◎開催の基本事項（想定）

国際園芸博覧会の開催は、大きな可能性を有している旧上瀬谷通信施設の跡地利用計画の推進に有効であると考え、以下を想定して検討を進めます

- □ 開催地　旧上瀬谷通信施設※
- □ 開催年及び期間　2026（平成 38）年 春から秋(6 か月間)
- □ 入場者　1,000 万人から 1,500 万人
- □ 会場　国有地を中心に 80~100ha 程度



※平成 27 年 6 月の米軍への施設提供の終了を踏まえ、約 250 名の地権者の皆様と横浜市で将来の土地利用の検討を始めています。

◎スケジュールイメージ（太字は横浜市が主体的に行うこと）

年度	想定される主な取組
2016	**花博招致検討（基本的な考え方の作成など）**
2017～2019	**検討組織の設置(予定)、花博構想(案)の作成、国へ花博招致の正式要請、AIPH(国際園芸家協会)に花博開催申請**・承認
2020	閣議了解⇒BIE(博覧会国際事務局)に花博開催申請・承認
2021	閣議決定⇒BIE(博覧会国際事務局)に登録、博覧会協会設立
	会場計画・整備、参加招聘
2026	国際園芸博覧会（花博）の開催

旧上瀬谷通信施設における国際園芸博覧会の開催検討への支援・協力（国土交通省、農林水産省）

国際園芸博覧会の開催検討への支援と協力

（1）公園を核とした整備計画策定への支援

（2）国際園芸博覧会の招致検討への協力

【提案の背景・必要性】

・本市は、環境問題や超高齢社会への対応などの社会課題を解決する**「環境未来都市」の取組を積極的に進めています**。また、樹林地や農地の保全、緑の創出のために**「横浜みどりアップ計画」による総合的な取組を進めてきました。**

・**来年は、第 33 回全国都市緑化よこはまフェアを開催**し、多くの皆様に花や緑のある生活の豊かさや大切さを実感いただけるよう、準備を進めています。

・昨年６月、市内米軍施設の中で最大面積であった**上瀬谷通信施設が返還されました。横浜のみならず首都圏でも貴重な広大な土地（約 242ha）であり、その跡地利用は新たな活性化拠点になると考えます。**

【提案内容の説明】

・本市では、緑豊かな都市づくりを進めると共に、旧上瀬谷通信施設の跡地利用促進策として**国有地の活用による国際園芸博覧会※の招致を検討しています。**

・開催後の会場は、旧上瀬谷通信施設の跡地利用の核となる**都市公園を想定しており、引き続き、計画策定への支援が必要**です。

・また、今後設置予定の**国際園芸博覧会招致検討委員会（仮称）において**、国際園芸博覧会構想（案）の検討を予定しており、**関係府省の協力が必要**です。

※国際園芸博覧会は、1990 年に大阪で開催された**国際花と緑の博覧会が国内初で、開催理念である「自然と人間との共生」を全世界に発信し、環境を重視する都市づくり等の先導的役割を果たしました。**

国際園芸博覧会についての横浜市の基本的な考え方（素案）

現時点での国際園芸博覧会についての本市の基本的な考え方は次のとおりです。

◎開催意義（案）

【国内】未来への展望を示し、社会変革の契機としての国際園芸博覧会の開催

⇒未来の社会のモデルとなる**「生活の『質』の向上を重視した社会の実現」**

【横浜】海外との花文化の交流窓口の歴史、環境施策を展開する横浜での開催

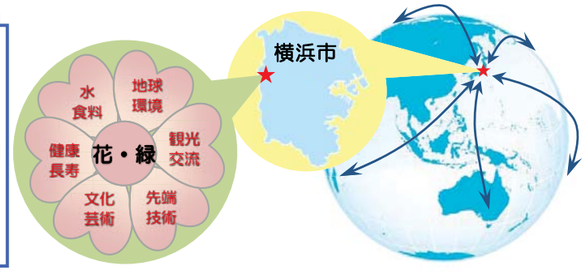
⇒都市緑化よこはまフェアをステップとした**「Garden City Yokohama に向けた都市づくり」**

【地域】戦後 70 年の返還地であり首都圏最大級の広大な空間での開催

⇒横浜市郊外部の活性化拠点としての**「旧上瀬谷通信施設のまちづくりの起爆剤」**

◎開催理念（案）

未来にむけて、花や緑を通して、地球規模の環境問題である温暖化や生物多様性、食料問題などの解決を促し、暮らしや健康・文化などの生活の「質」の向上の新たな提案を行う、時代の転換点となる国際園芸博覧会の開催



海外と日本の文化交流の窓口となった横浜から発信

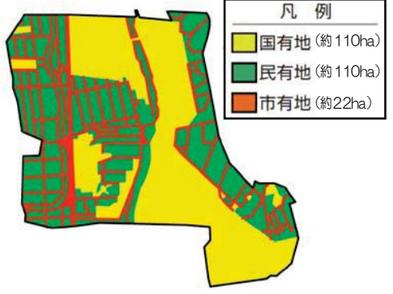
◎開催の基本事項（想定）

開催区分	国際園芸博覧会（Ａ１）、国際博覧会
開催地	旧上瀬谷通信施設※ ※約 250 名の地権者の皆様と横浜市で将来の土地利用の検討を始めています。
開催年・期間	2026（平成 38）年 春から秋（６か月間）
入場者	1,000 万人から 1,500 万人
会場	国有地を中心に 80ha から 100ha 程度

旧上瀬谷通信施設（約 242ha）

航空写真

土地所有区分図



提案の担当／政策局政策部政策課担当課長　松嵜　尚紀　℡ 045-671-3203